

KaracrixBuilderV3 システムマニュアル

13章 制御パラメータ入力

(章別取扱説明書 v1.00)

株式会社 エスアイ創房

KaracrixBuilder

改定履歴

第 1.00 版 2008/12/1

おことわり

- (1) 本書内容の一部又は全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書内容は、将来予告無く変更する場合があります。

KARACRIX は株式会社エスアイ創房の登録商標です。

KaracrixBuilderV3 システムマニュアル 第 1.00 版 © S.I.Soubou Inc.

目次

13 章	制御パラメータ入力	13-1
13.1	制御パラメータの設定	13-1
13.2	制御プログラムの実行	13-4

13章 制御パラメータ入力

制御プログラム登録画面でパラメータ定義値付きの制御プログラムを作成した場合に、実行時に制御パラメータの定義値のみを変更して再実行したい場合があります。

制御パラメータ入力画面では、制御プログラム登録画面で定義したパラメータの値を変更(編集)して、制御プログラムを再実行することで処理動作に反映する機能を提供します。ここで設定したパラメータ値はプログラムの作成方法により動作中の制御プログラムに即時反映するように動作させることも可能です。

Web ブラウザや携帯端末からも制御パラメータ入力操作ができます。

13.1 制御パラメータの設定

(1)プログラムの選択

メインメニューから“制御パラメータ”を選択し、「制御パラメータ入力」画面を開きます。登録されている制御プログラムの一覧が表示されます。ここで、“数”欄に“1”以上の値が表示されているプログラムはプログラム内でパラメータの定義がされていますので、プログラムパラメータの設定が行えます。

“数”欄に“0”が表示されているものは、パラメータ定義がありませんので設定は行えません。

パラメータの設定を行うプログラムをカーソルで選択して下さい。「パラメータ編集」画面が表示されます。



No.	プログラム名	プログラムメッセージ	数
1	ブートプログラム(他のプログラムを起動)	Start : 2007/12/ 9 16:16:22	0
2	制御プログラム1		6
3	操作警報履歴生成練習		0
4	オンオフ単純ループ制御(do01)		0
5	ポイント値変更シミュレータ(ai01, ai03, ai04)		0
6	Dynamic DNS (do, jp) アクセス		3
7	SI創研I/O通信テストPROGRAM(予備)		02
8			
9			
10			

図 13.1.1 制御パラメータ入力画面

(2)制御パラメータの設定

「パラメータ編集」画面で、制御パラメータの編集を行うことができます。デフォルトで設定されている値は、「制御プログラム登録」画面内の「制御パラメータ登録」画面で定義された時点で入力された値が表示されています。また、この画面の表示項目で編集できるのは“設定データ”のみです。設定項目の追加や編集は出来ません。

“設定データ(2)”欄(画面内最下部)には、カーソルの表示されている行の設定データを全て表示します。



図 13.1.2 パラメータ編集画面

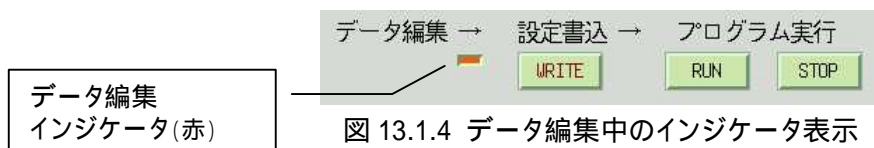
「パラメータ編集」画面で、設定を行う項目の“設定データ”欄を選択して下さい。「文字入力」ダイアログが表示されますので設定値を入力してください。設定したデータは、文字列として登録されます。



図 13.1.3 パラメータデータ入力

(3)制御パラメータの書き込み

制御パラメータの定義値を変更した場合に、このパラメータを定義ファイルに書き込む必要があります。この時、データ編集インジケータが以下の様に“赤”に変化しているはずですが。



これは、制御パラメータの定義値を変更したためで、画面表示上のデータと設定ファイルの内容が同期されていないことの注意を促すための表示です。この時点では、まだ、編集した値はシステムに反映されていません。

ここで、“WRITE”ボタンを押すと、押した時点でシステムの定義ファイルに反映されてデータ編集インジケータが“緑”に戻ります。

また、編集中に“RUN”ボタン、“END”ボタンを押すと以下の様に確認メッセージが表示されます。

RUN データ未書込状態、プログラム実行しますか？

END データ未書込状態のまま画面終了しますか？

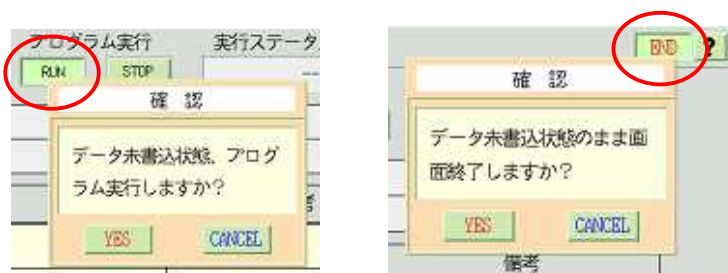


図 13.1.5 データ編集集中の警告メッセージ

13.2 制御プログラムの実行

「制御プログラム登録」画面でプログラムがコンパイルされて実行ファイルが作成されている場合には、本画面でプログラムの実行が可能です。プログラムの実行ができる場合には、“RUN”、“STOP”ボタンが以下のように凸表示になっています。

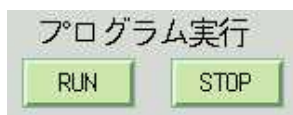


図 13.2.1 プログラム実行可能時のボタン表示

実行ができない場合には、以下のように凹表示になっています。

この場合は、「プログラム登録」画面で、実行ファイルが作成されていることを確認して下さい。



図 13.2.2 プログラム実行不可時のボタン表示

プログラムが停止している状態では、以下のように実行ステータス欄の表示は"--"になっています。

プログラムが停止しているにも係わらずプログラム STOP ボタンが実行できる状態にあります。この状態で STOP ボタンを押した場合、プログラムの稼働状況に関係なく強制停止コマンド(kill)がその都度発行されます。



図 13.2.3 停止時の実行ステータス表示

プログラムを実行するには“RUN”ボタンを押して下さい。実行ステータス欄の表示が“RUN”と表示されます。



図 13.2.4 実行時の実行ステータス表示

制御プログラム内で、メッセージ出力関数*1 を実行すると、本画面の“プログラムメッセージ”欄に指定したメッセージが表示されます。このメッセージを確認することでプログラムの正常動作などをモニタする用途に使用できます。

*1 kcxprg_debug_msg_cwt 関数:「23章 KCX ライブラリファレンス」参照



図 13.2.5 メッセージ出力関数によるプログラムメッセージの表示例

